

「恒藤恭とナショナリズム」

恒藤恭は、研究者の出発点ともいえるエッセイ「世界民の愉悦と悲哀」の叙述から、世界市民主義者(コスモポリタン)のように見られ、また第二次大戦後には世界人権宣言や日本国憲法の思想を高く評価した自由主義者と考えられています。他方で、『憲法問題』中の論文では、「日本民族の更生」という表現に現れるようにナショナリズムについても重要な位置づけを与えているようにも思われます。恒藤のこうした姿勢をどう考えればいいのでしょうか。

本シンポジウムでは、久野譲太郎氏に、恒藤の民族認識の発展とその意義についてお話しただくとともに、桐山孝信氏に、恒藤と同じく第二次大戦後すぐに日本民族の覚醒を高揚し、対日講和では全面講和と永久中立を主張した南原繁(元東大総長・政治学者)との比較を通じて、彼らにとってのナショナリズムは何であったのかを話していただきます。ナショナリズムが様々な形で噴出し、世界を激動させている現代を皆様とともに考える機会となれば幸いです。

また、コロナ禍で紹介する機会がないままでしたが、大阪公立大学杉本図書館内に設置された「恒藤文庫」についてもお話しします。



恒藤恭の授業風景(1920年頃)

報告

久野 譲太郎 (ハイデルベルク大学客員研究員/同志社大学嘱託講師)

「恒藤恭における民族認識の理論的発展とその意義

—戦時期を中心に—

桐山 孝信 (大阪公立大学大学院法学研究科教授)

「恒藤恭と南原繁—民族と平和—

話題提供

安竹 貴彦 (大阪公立大学大学院法学研究科教授)

「『恒藤文庫』の発足」

総括コメント

広川 禎秀 (大阪公立大学大阪市立大学恒藤記念室特任教授・大阪市立大学名誉教授)

司会

山東 功 (大阪公立大学大学史資料室長・大学院現代システム科学研究科教授)

2022年(令和4年)
12月3日(土)

午後1時30分～4時(開場 13:00)
大阪公立大学 杉本キャンパス
1号館 140周年記念講堂

入場無料

★申込み必要★
右記フォームより
お申込み下さい
11月27日(日)しめきり



<https://forms.office.com/r/MUW2RrRF6N>

新型コロナウイルスの感染状況やその影響による自治体・本学の方針等により、オンライン開催に変更となる可能性がございます。
(変更時はご連絡先へ個別に連絡いたします)

問い合わせ先/大阪公立大学<杉本キャンパス> 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大学史資料室 tel:(06)6605-3371/fax:(06)6605-3372 / 学術情報総合センター tel:(06)6605-3211/fax:(06)6605-3218

■ 主催 大阪公立大学 大阪市立大学恒藤記念室 / 大学史資料室

プロフィール



久野 譲太郎 (くの じょうたろう)

ハイデルベルク大学客員研究員、同志社大学嘱託講師。博士(文化史学)。

専門は近代日本思想史、日独学術交流史。主な業績は「総力戦体制」下の恒藤法理学(『歴史リア』231号、2012年)、「戦時期恒藤恭における民族認識の特質と展開」(『政治思想研究』17号、2017年)、「ヴァイマル期ハイデルベルク大学への日本からの留学状況とその歴史的背景」(『Bunron』8号、2021年)など。



桐山 孝信 (きりやま たかのぶ)

大阪公立大学大学院法学研究科教授。博士(法学)。

専門は国際組織法。神戸市外国語大学助教授、大阪市立大学法学部助教授、大阪市立大学大学院法学研究科教授を経て、現職。『民主主義の国際法』(有斐閣、2001年)などの著書がある。恒藤の法学研究も行っており、近作に「戦後世界と恒藤恭の社会科学的研究」(法学雑誌64巻1・2号、2018年)ほかの著作がある。



広川 禎秀 (ひろかわ ただひで)

大阪公立大学大阪市立大学恒藤記念室特任教授、大阪市立大学名誉教授。博士(文学)。

専門は日本近代史。『恒藤恭の思想史的研究』(大月書店 2004年)など、恒藤恭の思想史的研究を行い、近作に「恒藤恭と講和問題—平和問題談話会を中心に—」(『恒藤記念室叢書9』2022年)ほかがある。長く大阪市立大学大学史資料室長を務め、大阪市立大学恒藤記念室の資料充実に尽力した。大阪市立大学大学史資料室編『向陵記—恒藤恭 一高時代の日記—』(大阪市立大学、2003年)の編集・刊行では中心的役割を果たした。

当日、140周年記念展示室を開室いたします(12:00~13:00、シンポジウム終了後~40分程度を予定)

